

# 南の風 391

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

③の、ずっと負けていたのに逆転したが、再び逆転されて負けたケースです。（仮想して考えます）

例えば3Qまで10点負けていて、4Qで逆転したけれども再逆転されて負けたとします。

こういうケースでは、一度逆転するまでのゲームの流れと、再逆転されてしまう経緯を分析しなければならないと思います。

①4Qの出だから戦術が機能し、展開が有利なり点差を詰めることができた

②若干の紆余曲折があったが、流れをつかみ逆転した

③逆転した時点で残り時間2分、さらに点が入りリードが広がる（4～5点）

相手がタイムアウトを取ったとします。

ゲームの流れは逆転したチームに傾いているように見えます。戦術（ここではオールコートプレスが奏功したとします）がうまく行き、相手のボール運びを潰しパスカットや、8秒やショットクロックが有利に働き、逆転しリードしました。

ここで相手がタイムアウトを取りました。相手ベンチの指示は、おそらくボール運びについてと落ち着きを取り戻すためのメンタル面のケアが考えられます。

逆転したチームのディフェンスの指示は、大きく二つに分かれることになります。

(1)押せ押せでいくために、また相手にダメージを与えるためにオールコートプレスの続行

(2)一旦ハーフのマンツーマンに戻し、堅実に守る

今回は、再度逆転されて負けてしまう想定ですから、あくまで仮想とします。

『逆転したベンチが、(1)のオールコートプレスを続行したが、相手に上手く運ばれアウトナンバーから得点されてしまい、さらにあわててオフェンスミスが生じ、一気に再逆転されてしまった』とします。

結果だけで語ることは、避けなければいけませんが私の考えを書きます。

結論から書きます。(2)を選択すべきです。なぜなら、確かにオールコートプレスは十分機能し逆転までいきました。但し、相手のタイムアウトで流れが変わる可能性は大です。運びをきちんと考えてくることは容易に想像することができます。オールコートプレスを続けることはリスクが高いと考えます。

ここは、残り時間（2分）を考えディフェンスをハーフに戻し、相手にやらせてはいけないオフェンスプレーを指示します。さらにディフェンスリバウンド（ボックスアウトを含めて）をチーム全体で徹底するようにします。さらに相手のプレスに対する運びもしっかり確認しておきます。

相手にやらせてはいけないオフェンスプレーとは、このゲームで当たっている相手選手のシュートはできる限りチェックするとか、相手の得意とするスクリーンプレーを阻止するとかです。

もう一つは、シュートに対するファウルをしないことです。時間を止めて得点されることは絶対避けなければなりません。（当然チームファウルも視野に入れておく）

こう考えるときのゲームのクリティカルモーメントは、4Qに相手が取ったタイムアウトにあったと言えるかもしれません。 次号にします。